

## 飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

### 第94回 物事の良い面に光を当てる

経営者なら従業員、上司ならその部下達、親の立場なら息子や娘、教師であれば生徒やお弟子さん達になるであろうか...、要は、「人」をその気にさせるにはどうしたらよいか？永遠のテーマであり、従って、みんな悩んでいる。

幾つものアプローチがあるだろうが、小生自身の反省を含め、一つの方法を試みたいと思っている。それは「物事の良い面に光を当てる」ということである。じりじりと、いつまでも小言を言い続けるのでなく、良いところを最初に見つけ、そこにスポットライトを当てながら、彼のやる気を引き出していく...そんな考え方を実践してみたいと思っている。

そのためには重要なことが二つある。

一つは「いいものはいいと素直に認める」こと。

もう一つは「物事を良い方向から見えていく」ことである。

例えば、こんな話があった。小社主催の「経営実践塾」、先般、自分で作れる経営計画シミュレーションセミナーを開催した。実際に、受講者一人一台のパソコンを使い、自分で自社の経営計画を、その場で作ってしまおうというものである。その準備のため、小社が通常活用している小社開発のシミュレーションソフトを、より簡易にセミナー用に手直しして、当日受講者全員に使ってもらえるよう、作業しなければならないわけである。

担当の二人の男性スタッフが、恐らく10日間くらいかけて、修正作業に取り組んだようである。何回かリハーサルやり、セミナー当日直前は、徹夜が続いたと思われる。

結果、セミナー当日、最後の段階で、予定していた「一括デリート」のファンクションが実行されなかった、つまり、その部分、失敗である。担当スタッフは、只管<sup>ひたすら</sup>流れ落ちる汗を拭い、生きた心地でないことは、見ていて直ぐに、みんな分かった。

「馬鹿野郎！今まで何やっていたんだ。みんなの前で恥じ掻かせやがって！！」と怒鳴りまくっていたのが、従来の小生の姿である。

あんな一生懸命準備していた彼等、何日か徹夜したであろう若者を、一瞬すっかり、忘れてしまう。「一括デリート」ができなくても、実は大勢にさほど問題はないことも、後でいつでも、しかも簡単に修復できることも、忘却の彼方へ...。何で認めてあげないのか、寧ろできなかったことが一つの問題提起になって、より高度な開発セッションとなっているかもしれないのだ。

ここで怒り狂っていたら、彼らの「やる気」は全く消滅してしまう。認めてやり、彼らの努力を讃えてあげることが、プラスへの第一歩になる筈である。そう、その証拠は歴然としている。受講者の全員から、「称賛」のアンケートを頂いたのだから...